

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

August 2022 8

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2022年8月1日発行（毎月一回1日発行）第776号

● 出会い・本・人

空洞を露に 小崎 眞

● 特集「パレスチナ問題」に取り組むための

この三冊！ 有住航

● エッセイ

『小川修 パウロ書簡講義録』全十巻の刊行を終えて 立山忠浩

● 本・批評と紹介

中山直子 著 二羽の小鳥 水島祥子

長谷川忠幸 著 モーセの仰ぎ見るテムナーとは何か 大坂太郎

中島耕二 編／日本基督教団新栄教会タムソン書簡集編集委員会 訳

タムソン書簡集 山ノ下恭二

窪寺俊之 著

金子みすゞの苦悩とスピリチュアリティ 河原清志

富坂キリスト教センター 編

北東アジア・市民社会・

キリスト教からみた「平和」 飛田雄一

開岡一成 著 吉野作造と海老名弾正 本井康博

斎藤宗次郎 編著／児玉実英、岩野祐介 編

内村鑑三先生の足跡 赤江達也

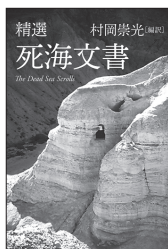
既刊案内

書店案内

精選 死海文書

村岡崇光 編訳

ヘブライ語、アラム語の
世界的権威による画期的な翻訳！



紀元前後のユダヤ教また新約聖書の背景を知る上で不可欠な死海文書。その中から最も重要な「創世記外典」「ハバクク書注解書」「共同体の規約」を精選して翻訳。

アラム語で書かれた「創世記外典」は聖典の「創世記」を、著者が想像を膨らませ、創世記をめぐって当時流通していた伝承を取り入れて創作した「創世風創世記」と呼んでもよい文書である。学界ではrewritten Bibleと呼ばれることもあり、死海文書の中には他にも幾つか例がある。残りの二書「ハバクク書注解書」と「共同体の規約」はどちらもヘブライ語で書かれているが、前者はこれも死海文書の中になら多く例のある文書群の一つで、後者は死海文書の中のかなりのものを執筆し、あるいは教団成立以前に遡る文書を書き、またそれを読んだクムラン教団の憲章とも言える内容的に極めて重要な文書である。

● 四八判・並製・122頁・定価3,080円

南アフリカの
神学者に学ぶ



黙示録が告げる世界と教会の将来とはどのようなものか。黙示録の全体像を理解し、教会が宣教の原点に立ち返り、主の召命に応じて歩み出すため、実践的な学びと励ましを与える。

● 四八判・並製・274頁・定価3,520円

開かれていた門

ヨハネの黙示録のメッセージ

クニイ・ベルガー 著 三野孝一 訳

微笑みは永遠に

日本とロシアを愛したニコライ・ドミートリエフ神父

スヴェトラナ・山崎ひとみ 著

桜木紫乃氏・佐藤優氏推薦！



宣教師ニコライ以来のロシア人「ニコライ神父さん」として、函館で宗教を超えて愛されたニコライ・ドミートリエフ。その生涯をたたかなユーモアを交えて描くエッセイ。巻末に、30頁で読める通史「ロシアとロシア正教会」を収録！

● 四八判・並製・230頁・定価1,650円

オンデマンド版復刊

加藤常昭説教全集9

ルカによる福音書2

加藤常昭 著

● 四八判・並製・584頁・定価5,390円

加藤常昭説教全集14

ヨハネによる福音書3

加藤常昭 著

● 四八判・並製・342頁・定価3,520円



空洞を露に



小崎 眞

半世紀以上、地方の一教会で奉仕した牧師の子として育まれる中、いわゆる「いい子」でいることが期待され、そのことを自身にも強いてきた。学生時代は実家を離れていたものの、得体が知れない「牧師（教会）の子」という虚像を背負い、喫煙の事実さえも親に隠し、弱音を吐くことを避けてきた。教会生活の中で「良い・正しい」と称される尺度（敬虔、献身、柔和等）に規定された世界へ自分自身を閉塞させ、主イエス以外（人間的評価や評判）を拠り所とする傾向へと陥っていた。

奇しくも、キリスト教主義大学で宗教教育の責務を負うこととなった頃、「宗教的人間・使徒的人間」との言葉に出会った（富岡幸一郎『使徒的人間カール・バルト』講談社2012年）。宗教的人間は「俗なる世界」に対して「宗教的人間」を想起し、いわゆる「良い人」を目指し、人間が作り上げた「宗教的なもの」の再評価、美化へと陥る。換言すれば、自己賛美・美化といえる。一方、使徒的人間は、「自己のなかに『住んでいる』

宗教から解き放たれ、『空洞を露呈する人間』として、そこに再生する（同123頁）といえる。十字架上に死んだキリストによって、私たちの作り上げた「正しさ、美しさ」が解体され、撤去される。その只中に新たな世界が創出する（同書参照）。

恥ずかしながら、バルトの神学的挑戦を「小難しい神学」とラベリングし、神学的思索を深めて来なかった。「空洞を露呈する」との言葉表現が心に染入り、自らの正義に固執することを手放す喜びへと招かれた。信仰の歩みとは、私だけの賜物を活かし、私を満たすことではない。聖書が伝承する人間創造においても、私たちの生命は「外側からの介入（命の息）」に根拠づけられ、「関係性（人が一人で行くのは良くない）」が尊重される。ボブ・ディランの反戦歌（風に吹かれて）のごとく、答え（正しさ）は私たちの手中にはなく、「風」の中にある。露わとなった空洞にこそ主の息吹が注がれ、新たな生命が創造される。

（こざき・まこと）同志社女子大学生活科学部教授



「パレスチナ問題」に取り組むための ▼三冊！

有住航

（ありずみわたる：日本基督教団下落合教会牧師 農村伝道神学校兼任教師）

わたしが信頼する旧約学者は、キリスト者が「聖地」と呼ぶあの土地の紛争が解決しないかぎり、その地に足を踏み入れることはしないと言う。それは今や紛争地と化した「聖地」が危険だからではない。「聖地」を危険な状態にしているその責任がじぶんたちキリスト者にあると重く受け止めているからだ。

1948年の「イスラエル国家設立」は、ユダヤ人迫害に対するヨーロッパ・北米諸国のキリスト者たちの罪悪に

よって導かれ、推進された。しかし、「イスラエル国家設立」は、パレスチナ人にとって住まい、故郷、いのち、信仰、アイデンティティを同時に喪失する「大惨事^{ナックバ}」に他ならなかった。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻のはるか前からパレスチナは軍事占領下であり、おびただしい軍事暴力と人権侵害がこの土地とそこに住まう人びとに振るわれつづけている。このようなパレスチナ人の歴史と現実を目を背けつつ、イスラエル行き「聖地旅行」に出か

けることは、今なおつづくイスラエルの占領と暴力を黙認・加担することになりかねない。

「パレスチナ問題」とは、「パレスチナの問題」なのではない。イスラエルによるパレスチナの軍事占領、土地の強奪、人権侵害を含むイスラエル・パレスチナをめぐる深刻で未解決の問題をさす。同時に、「パレスチナ問題」とは現在のイスラエルを「約束の土地」と単純に同定し、イスラエルの非人道的な振る舞いを看過しつづける世界中的キリスト者の問題でもあるのだ。

「パレスチナ問題」について日本語で書かれた書籍は数多あるが、今回は比較的最近出されたもので、わたしが関心を寄せている「解放の神学」の視点から、以下の三冊を分かち合いたい。

パレスチナ人キリスト者が著した本はたくさんあるが、**ナウム・アティ**

ク『サビールの祈り パレスチナ解放

の神学』を推したい。

エルサレム・中東聖公会司祭であり、「サビール・エキュメニカル解放の神学センター」ではたらくアティークは、1948年のイスラエル占領時に生まれ故郷であるベイサンから家族共々に難民となった経験をもつ。アティークは、パレスチナ解放の神学のコンテクストを1948年の「イスラエル国家設立」によってパレスチナ人に加えられた「三重のナクバ」（人間、アイデンティティ、信仰のナクバ）に置き、「約束の土地」に固執するシオニスト・イデオロギーとイスラエルによるパレスチナの土地への入植がいかに正統性のない欺瞞に満ちたもののかを2000年にわたるこの土地の歴史から詳細に論じていく。アティークが本書で最もおおくのページを費やすのは、聖書、とりわけ旧約聖書に見られる自民族中心的・排

他主義的な記述や、土地の占有とそれにとまなう排除に関するテクストに対して厳しい批判を重ねていく作業である。アティークがこの作業におおくの労力と紙幅を割くのは、これらのテクストがパレスチナの占領や排除を正当化するシオニスト・イデオロギーの根拠として利用されつづけているからだ。アティークは聖書のシオニスト的解釈がイスラエルの占領政策を進める上でいかに重要な役割を果たしてきたかを明らかにする。また、聖書におけるイスラエルの地を現代の特定の領土にあてはめることは、パレスチナ人をこの土地の「よそ者」として追放することの正当化してしまおうと警告する。聖書における「約束の地」は特定の領土・空間・場所をさす言葉ではなく、神の民が生きる場を指し示すメタファーとして受け止めるべきであり、それはイエスの「神の国」理解と通底するもの

だというアティークの読みは、「約束の地」をはじめとする聖書のあらゆる記述がパレスチナの占領を正当化する政治的イデオロギーとして利用されていることを黙認しつづける世界中のキリスト者を鋭く問うものだ。

アティークたちパレスチナの草の根の運動に呼応し、「パレスチナ問題」とキリスト教の責任を問いつづけた人びとは世界中におおぜいいる。たとえば、**村山盛忠『パレスチナ問題とキリスト教』**には、日本のキリスト教における「パレスチナ問題」への取り組みの一端がまとめられている。

1964年から1967年にかけてエジプトのコプト福音教会で産業伝道の組織化にかかわり、中東のキリスト教と出会った村山は、1967年の第3次中東戦争を間近で経験してもなお「パレスチナ問題」が「見えていなかった

た」と告白する。その後、エルサレム聖公会主教のリアーハ・アブ・エル・アサルとの出会いをつうじて、村山はユダヤ人問題を放置し解決することができないまま、政治的シオニズムを容認しつづけるキリスト者こそが「パレスチナ問題」の当事者であると考えるようになり、パレスチナの運動に深く関わっていく。

村山も、アティークたちの解放的な聖書解釈に呼応し、「イスラエル史観」で聖書の物語を読むことの危険性を指摘する。ラテンアメリカをはじめとする解放の諸神学において、解放的モデルとして参照される出エジプトの物語もまた、パレスチナの側からすれば、モーセらイスラエルの民の「帰還」によってその土地に住んでいた土着の人民と、つまり「パレスチナ人」を追いつし、征服する物語にすぎない。

「あとがき」でも述べられていると

おり、本書は「パレスチナ問題の解説書」ではなく、この問題と取り組んできた一人の運動家、キリスト者による手記である。過去さまざまな媒体で書かれたそれらの手記を集めた本書は、扱われる時代やテーマも幅広い。それぞれの時代状況から紡がれる村山の言葉は、「パレスチナ問題」をめぐる運動史の記録としても意義がある。また、パレスチナを含む中東キリスト教についての詳細な説明は、「パレスチナ問題」を理解する上で欠かせないものであるだけでなく、ヨーロッパ中心のキリスト教史で後景化されやすい中東に生きるキリスト者の実像を伝えるものとして、いまなお貴重である。

アンドレアス・マルム『パイプライン爆破法 燃える地球でいかに闘うか』は、現在の地球温暖化をはじめとする気候変動とそれに対するラディカルな

社会運動について論じたものだ。「パイプライン爆破法」という物騒な（あるいは心踊る）タイトルは、「気候をカストライ（破局的な事態へと進ませない）ために、火力発電所など化石燃料インフラの破壊、あるいはそのオペレーションを阻害・停止するためにパイプラインを爆破するといった直接行動をさしている。マルムはこのような直接行動の「バイオニア」としてパレスチナの抵抗運動をいくつも参照する。第一次世界大戦後、ペルシャ湾で発見された油田から欧米に輸出するためにイギリス委任統治領パレスチナにパイプラインが建設された。しかし、1936年にパレスチナ人が起こしたゼネストの最中にパイプラインが破壊され、石油利権を

目論む英国人入植者は収入源とエネルギーを同時に失った。1969年にもイスラエル占領地域の数カ所のパイプラインがパレスチナ解放人民戦線

（PFLP）によって爆破されている。

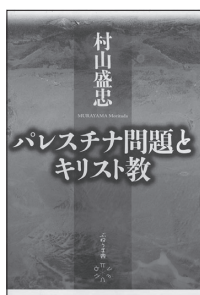
何十年もパレスチナ人は占領の現実と闘いつづけてきた。その具体的な標的はイスラエル兵やイスラエルの民間人といった人間ではなく、占領を可能にし、それを強力に推進するインフラだった。2018年、包囲下にあったガザ地区で展開された「イスラエルの物や設備を燃やすために、発燃性の物

質を運ぶ風」や「ヘリウムを注入して膨らませたコンドームを分離壁の向こう側まで飛ばす技術」を、マルムは「骨の髄まで収奪された人びとが発射するリンペン・ミサイル」と表現する。「開発」や「インフラ整備」の名の下にパレスチナの土地が収奪されつづけ、樹齢数百年のオリーブの木が切り倒され、家々が破壊され、その横暴に

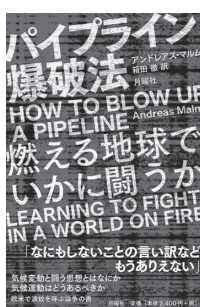
抗議する人がブルドーザーで轢き殺される最悪の現実から、非武装の、独創的な抵抗運動が立ち上がる瞬間を活写し記録する本書は、現在の「聖地」で何が起きているかを知るための手がかりとして、また「化石燃料の採掘」や「開発」や「インフラ整備」を口実に進められる占領の実態を問うために、読んでおきたい一冊だ。



『サビールの祈り
パレスチナ解放の神学』
ナウム・アティーク：著
岩城聡：訳
教文館
2019年刊
四六判 266頁
2,420円



『パレスチナ問題と
キリスト教』
村山盛忠：著
ぶねうま舎
2012年刊
四六判 193頁
2,090円



『パイプライン爆破法
燃える地球でいかに闘うか』
アンドレアス・マルム：著
箱田徹：訳
月曜社
2121年刊
四六判 272頁
2,640円

『小川修パウロ書簡講義録』全十巻の刊行を終えて パウロの声に耳を澄ませ

立山忠浩

『小川修パウロ書簡講義録』全十巻の刊行を遂行した。本講義録は、小川修氏の同志社大学神学部大学院での講義（二〇〇七～二〇〇九）を忠実に起こしたものである。小川氏は刊行を志した四名（箱田清美、高井保雄、大柴譲治、立山忠浩）の日本ルーテル神学校の学生時代の恩師であった。聖徳大学に身を置きながら、同志社大学神学部の石川立教授の招聘に応じてパウロ書簡の講義をされたのである。講義録を刊行することになった第一の理由は先生の突然の癌の発覚であった。息を引き取る一年ほど前に手遅れ状態の病巣が見つかり、一年の余命を告知された。期待した抗がん剤の効果が芳しくなく、先生ご自身の手による講義録の出版が困難となることを悟った我々は先生を説得して（本人には出版の計画はなかったが）我々の手で講義録の刊行を行うことを承認していただいた。せめてご存命中に第一巻を出版することを目指したが、それは叶わなかった。

さらにもうひとつの理由があった。先生の講義は実に斬新で、しかも根拠を持った明晰さに満ち、福音の恵みと豊かさに溢れている。これを大学院の講義だけに留めることは大きな損失と考えたからである。我々がパウロから受ける印象は何か。ルターの宗教改革がローマ書、ガラテヤ書を中心としたパウロの手紙との出会いから起こったことは誰でも知っている。ゆえにプロテスタント教会に属する者にパウロ書簡の重要さを疑う者はまずいない。しかしパウロ書簡を丹念に読むことがあるだろうか。例えば秋の宗教改革を意識する時期に、信仰によって義とされるという「信仰義認論」を確認するために、ローマ書やガラテヤ書の該当する箇所だけを読み直すことがある。さらに言えば、ルターの義認論を前提にしてパウロを読もうとするのである。もちろんそういう読み方が有益なことがある。

しかし小川先生のパウロの読み方はそれとは異なる。「パウロの声に耳を澄ませ」、これである。ルターを初め、偉大な神学者たちのパウロ解釈に耳を澄ますのではない。むしろ彼らの解説を検証し、自分自身がパウロの肉声を聞き取る中で、「キリストへの信仰によって義とされる」（ガラテヤ二・一六など）のではなく、「キリストの（まこと）によって義とされる」という声を聞いたのである。もつともこれはバルトが『ローマ書』で語り、新約聖神学の専門家たち（前田護郎、太田修司、田川建三など）も述べていることであり、先生のオリジナルではない。しかしパウロの三大書簡を辿る中で、信仰義認論ではなく、一貫して流れている「（まこと）による義認論」を掴んだのである。本講義録の副題の「神の（まこと）から人間の（まこと）へ」はこれを表現しているが、これが本講義の根幹である。因みにこの副題は、ローマ書一章一七節の言葉であるが、ここは「初めから終わりまで信仰を通して実現される」（新共同訳）とか「信仰に始まり信仰に至らせる」（口語訳）と訳されて来た。この度の『聖書協会共同訳』でようやく「真実により信仰へ」と改訳された。その他パウロのダマスコ体験（パウロ自身はほとんど語らないという問題）、人基一体という造語、Iコリント一

五章の復活理解など目の開かれる講義に満ちている。ここまでの解説から小難しい講義録を連想された方も多からうが、そうではない。講義録ではしばしば座古愛子という女が登場する。身体に大変重い障がいを負い、絶望の日々を生きなければならなかった女性である。学歴はなく論文も残していない。神学界では無名と言って良い。しかし彼女こそがパウロの福音を体現し、新しい人間として生きることになった稀有な人として取り上げられる。パウロの声は神学議論や神学書、あるいは小難しい注解書から聞こえるとは限らない。むしろ稀である。この講義録は座古愛子の掴んだパウロの声を代弁しているとも言えよう。小難しい講義を目的としないことは明らかであろう。

（たてやま・ただひろ 日本福音ルーテル都南教会牧師）

小川修 パウロ書簡 講義録（全10巻完結）

小川修パウロ書簡講義録刊行会 編
●A5判上製 ●各巻定価3,300円



- | | |
|------|-----------|
| 第1巻 | ローマ書講義Ⅰ |
| 第2巻 | ローマ書講義Ⅱ |
| 第3巻 | ローマ書講義Ⅲ |
| 第4巻 | コリント前書講義Ⅰ |
| 第5巻 | コリント前書講義Ⅱ |
| 第6巻 | コリント後書講義 |
| 第7巻 | ガラテヤ書講義Ⅰ |
| 第8巻 | ガラテヤ書講義Ⅱ |
| 第9巻 | 前期論文集 |
| 第10巻 | 後期論文集 |

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

「よきもの」を 再認識させられる詩文集

〈評者〉 水島祥子



二羽の小鳥
信仰の尽きぬよろこび
中山直子著



あれは3年前、教会への説教奉仕のときのこと。礼拝開始まで時間があり、わたしはロビーで何気なく月刊誌『信徒の友』をめくった。その瞬間の出遭いだった。巻頭の「祈り」のページにあった「小鳥の歌った歌」である。その詩の内容が映像として見えた。これが、中山直子さんの詩との衝撃的な出遭いだった。

わたしは普段好んで詩を読む方ではない。活字中毒だった中高生の頃は、学校の宿題もそこそこの家にある新聞や月刊誌、学校の図書室や友人から借りた本まで一晩一冊ペースで読んだ。ジャンルは不問。小説が多かったが詩集も図書室にある有名なものは割と読んだ。しかし、ここ何年も自分から進んで本を読むことができなくなってしまった。膨大な情報量に毎日接するあまり、読みたくても本に手を伸ばす余裕がないのだ。

そのような状況での中山直子さんの詩との出遭いだったから、衝撃は大きく強烈だった。どのような方かも存じ上げず、でも礼拝式次第での交読文に代えて「小鳥の歌った歌」をリタニー（交棒）として使用することにご快諾をいただいた。

その後も毎月の詩を司会・会衆・一同で唱える交棒の形に変え、毎月奉仕をした三教会のうち二教会で、二〇一八年度の一年間リタニーとして使用させてもらった。

今回、十二回にわたり『信徒の友』に掲載されたその詩に書き下ろしの詩とエッセーを加えて『二羽の小鳥 信仰の尽きぬよろこび』として書籍化された。ここでも出遭いがあった。

六月の詩「引っ越し」である。最後と思っていた公営の分譲住宅への引っ越しが、最後ではないことに気づかされ

るシーンだ。この世を生きている者には、天国への引っ越しという一番大事な引っ越しがまだ残っているという真実に、子どもとの会話で向き合わされるのだ。今を生き急いで忘れがちになる大切なもの、立ち止まり目を注ぐべきものに気づかせてくれる日常のまなざしが、中山直子さんの詩にはある。「あとがきにかえて この詩文集をつくった私のものがたり」を読むと、第一部の詩が日記代わりに綴られてきたという背景がわかり、「ああ、それで気負わず、この透明感なのか」と納得した。

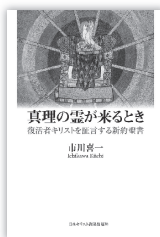
牧師の小島誠志さんが「推薦のことば」で書いているとおり、感想や批評とかで中山直子さんの詩の透明感を濁したくはない。喜びばかりではない、さまざまな悲しみや苦難の経験もすべて神による大きな慰めに包まれていること

が詩人のまなざしを通して示されている。エッセーから気づかされたのは、教員からの刺激の大きさだ。中山直子さんは幾人もの教師からよきものを受け取り、おそらく自らも教壇に立ったときに学生によきものを伝えていったことだろう。中高、大学で教員のわたしが、このようによい刺激を生徒・学生たちに与えているか、と自問する。一方で、教育は神の領域なのだから教えるという行為はおこがましい、共に学び、育つ「共育」ではないだろうかとも考える。

中山直子さんの詩やエッセーに刺激をいただきながら、わたしも大切なものへのまなざしを忘れずにいたい。

（みずしま・しょうこ＝松山東雲中学・高等学校宗教主事）
（四六判・一八六頁・定価一九八〇円・日本キリスト教団出版局）

聖書を霊的に読み解き、
「復活者キリスト」と「聖霊」
の現実を解き明かす



真理の霊が来るとき

復活者キリストを
証言する新約聖書

好評
発売中

市川喜一 著
1930年京都市生まれ。京都大学学部在学中、フィンランド宣教師の集会で受洗。1956年大学院中退、独立伝道開始。1986年個人福音誌「天旅」を発刊、現在に至る。

新約聖書を理解するには、霊的な次元で読むことが必要だ。著者は「十字架されたキリスト」が示す光に導かれ、聖書を緻密かつ霊的に読み解く。ヨハネ福音書とパウロ書簡を中心に、読者を「復活者キリスト」と「聖霊」に出会わせる一冊。宮本久雄氏推薦。
四六判 並製・152頁・定価1760円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》
<https://bp-uccj.jp>

徹底して聖書に聴いた 確かな「結実」

〔評者〕 大坂太郎



モーセの仰ぎ見る
テムナーとは何か
民数記1―36章に
おける構造分析
長谷川忠幸著



本書は著者、長谷川忠幸牧師が二〇二一年一月に東京神学大学大学院に提出した博士論文の書籍化である。その研究は旧約聖書の中に流れる「人間が神の姿や形を見ることが出来ない」という思想に真つ向から反対するように見える、民数記12章8節「口から口へ、わたしは彼と語り合う／あらわに、謎によらずに。主の姿（テムナー）を彼は仰ぎ見る。あなたたちは何故、畏れもせず／わたしの僕モーセを非難するのか」を端緒とし、モーセが仰ぎ見た神の姿とは何かということを示そうとするものである。

著者は先ず一九世紀以降の民数記の先行研究を渉猟することにより、民数記は多様な文学的ジャンルの内包している反面、その配置などに統一性を見ることは出来ないと考えられてきたこと、また二〇世紀後半にそのアンチテーゼとして起こってきた、モーセ五書全体の構造理解の枠組み

をもって民数記を理解しようとする流れ（G・ウェナム、J・ミルグロムなど）、更に進んで民数記自体の中に文学的・神学的な枠組みを見ようとする学者（D・T・オルソンの）の解説を紹介する。だが著者の評価によれば、それらの研究は、オルソンのような民数記に局限して構造分析をしたものでさえテキストから直接得られたものではなく、それぞれの学者が想定した「構造」に適合するようにモーセ五書を再構成したものすぎない。そうした「筋書き」を可能な限り排除して民数記自体に聴き、その構造を見出そうと努めるのが本書の流儀である。


その結果、著者は民数記1―10章には5、6章（法とアロンの祝福）を囲い込むようにレビ人、更には十二部族が配置されている構造を見出し（二二八頁）、更に11―20章にある「反抗」をモチーフにした物語群は、1―10章にあ

る、幕屋を中心とした聖なる境界線の順番にそった配列になっていることを発見した（二四一頁）。ほかにも21―25章に見られる散文中に詩文を織り込むことによる主題の集中（二八五頁）、更には26―36章にある「マナセの子マキル」というキーフレーズに着目し、当該箇所の後には「たとえ父祖や親が罪を犯しても、その子孫が神の聖性を保つなら、嗣業が与えられ」という神学的主張が強調されているという主張を展開し（三六三頁）、それらの発見に基づき、モーセの仰ぎ見た神のテムナー（姿）とは、一度は聖なる宿営の外に出される穢れを負った者も、浄められることが可能であり、宿営に戻されて、聖なる民の一人として教えてくださるものであると結論する（三九八頁）。

本文の内容もさることながら、興味深かったのはあとがきにあつたエピソード。著者が既存の研究書の要約のもとに指導教授の部屋に向かうと「つまらない」と一刀両断、教えてくださないと迫れば「わからなくなったら聖書に聞きなさい」と言われたとのこと。新約学を少しかじった評者自身にも類似的経験があつたことを思い起こした。残念ながら評者には本書を批判的にレビューするだけの力はないが、本書が徹底的に聖書に聴いた一つの結実であることは間違いない。

四半世紀前、ともに駒込の桜の下でバスケットボールに興じた長谷川先生、先生を支えられた律子先生の真実な「愛の労苦」（Iテサロニケ1・3）に心からの拍手を送りたい。

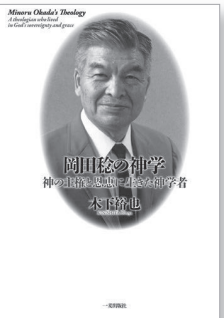
（おおさか・たろうⅡアッセンブリー・山手町教会牧師）
（A5判・四一六頁・定価六八二〇円・教文館）



岡田稔の神学

神の主権と恩恵に生きた神学者


木下裕也
KINOSHITA Hiroya



岡田稔の神学
神の主権と恩恵に生きた神学者
木下裕也

わが国における歴史的改革派神学の最も優れた紹介者であり、身をもって生き抜いた先達の神学を、綿密な解説をとおして明らかにする貴重な論考。

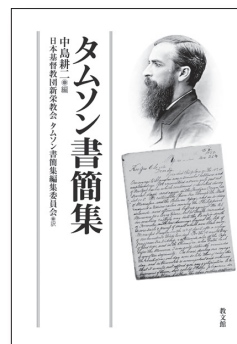
A5判
定価 6,160 [本体5,600 + 税] 円
ISBN978-4-86325-131-1



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<https://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

五二年間伝道に尽力した 来日宣教師の足跡

〈評者〉山ノ下恭二



タムソン書簡集
中島耕二編
日本基督教団新栄教会
タムソン書簡集編集委員会訳



このたび、『タムソン書簡集』が出版され、来日した一人の宣教師が、この時代に日本でどのように教会を設立し、伝道したのかを知る有益な資料を与えられたことを感謝したいと思います。

この書簡集には、一四九の手紙が収められています。ヘボン、S・R・ブラウン、フルベッキ、バラなどの来日宣教師はよく知られていますが、タムソンの名前は余り知られていません。彼は一八六三年に来日し、最初の日本人プロテスタント教会となった日本基督横浜公会の創立に貢献し、一八七三年には東京築地に日本基督東京公会（現・新栄教会）を創立し、仮牧師に就任しています。その後、多くの人々に洗礼を施し、現在の池袋西教会、牛込払方町教会、本郷教会、日本橋教会、桐生教会の創立に関わり、小石川明星教会、高井戸教会の説教を担当しました。五二年

にわたり日本の伝道のために尽力し、日本で逝去し、染井霊園に墓があるのです。

私がタムソンを知ったのは、牛込払方町教会創立一〇〇年記念誌の最初に彼の顔写真が掲載されていたからです。この百年誌には、牛込払方町教会の初代・四代牧師の小川義紘と二代牧師の奥野昌綱がタムソンから深い影響を受け、親しい関係をもっていたことが記されています。この書簡集にたびたび小川義紘と奥野昌綱が登場するのですが、二人とも宣教師の日本語通訳として、宣教師たちと共同して伝道をしているのです。

小川義紘については、この書簡集で次のように記されています。七四頁の注2を一部引用します。「一八六五年にタムソンの日本語教師となった。タムソンを通じてキリスト教に触れ信仰を得て受洗を申し出たが見送られ、その後、

教義研究に励み一八六九年二月にタムソンから受洗。一八七二年三月一〇日、横浜公会の創立に参加し長老に選ばれ、翌年一月、タムソンと共に東京に移り、九月二〇日の東京公会（現新栄教会）創立に際し長老に選ばれた。常にタムソンを助け、一八七七年一〇月三日、日本基督一致教会の創立時には奥野昌綱および戸田忠厚と共に按手礼を受けた。浅草教会、牛込教会、のちに明星教会の牧師を務め、かわら日本全国に巡回伝道を行い多くの教会の設立に貢献した。妻のきんも夫を助け伝道に生涯を捧げた」。牛込教会の創立が一八七七年一月一七日ですから、小川義紘が牧師の按手礼を受けてすぐに、牛込教会の牧師として就任したのです。

タムソンの功績として挙げることはできるのは、キリス

ト教禁教令を撤廃するために尽力したことです。この書簡集の「タムソン年譜」には、和歌山藩に招待され、そこに配流された浦上キリシタンの過酷な状況を聞き、横浜の英文誌に釈放を訴え、宣教師の連名で、アメリカ長老教会海外伝道局に、アメリカ政府から日本政府に禁教撤廃を要求するようにアッピールしたのです。これをきっかけに、禁教撤廃の動きが起ったのです。

東京周辺の各地にキリスト教会を設立し、生涯をかけて伝道のために尽力した宣教師の足跡を知るために、有益な書簡集です。

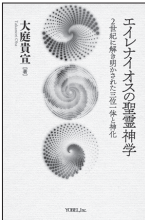
（やまのした・きょうじ）日本基督教団牛込払方町教会牧師
（四六判・三九四頁・定価六三八〇円・教文館）

ヨベルの新刊案内

大庭貴宣

キリスト聖書神学校教授、南山大学非常勤講師、南山大学大学院非常勤講師

エイレナイオスの聖霊神学



父なる神、御子、聖霊、それぞれの位相と相互の働きについて考察し、三位一体の神が人とのように関わってくるのか―を論ずる。異端反駁の苛烈な論戦を張りつつ涵養されていたエイレナイオスの聖霊神学、その全貌を解明する！ここから始まる！

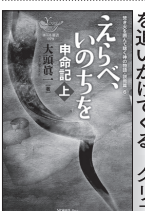
AS判変型・288頁・2530円

大頭眞一

『探火火を囲んで聴く神の物語・説教篇』(全8冊)

えらべ、いのちを

「生きよ！」と土に息を吹きかけた神が人生の荒野でも後を追いかけてくる。クリスチャンは「年中工事中」。見苦しくても、穴ぼこだらけでも神によって始められてしまったりリアル人生の途上に変わりはしない。好評第6弾！

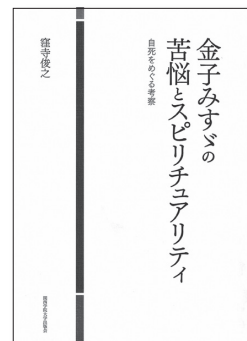


新書判・224頁・1210円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税別)

金子みすゞの魅力と 闇に再考を迫る名著

〈評者〉河原清志



金子みすゞの苦悩と
スピリチュアリティ
自死をめぐる考察
窪寺俊之著



本書の著者はスピリチュアルケアの第一人者にして牧師、元関西学院大学教授で兵庫大学大学院の現役の教授でもある窪寺俊之である。御年83歳にして、我々後進の者に心温かく常に光を照らしている、多くの方々から尊敬され愛されているお人である。教会で説教をするときクリスチャンに限らず多くの人が感動し、心を癒され、時として心を打たれるあまり涙を流す。そして穏やかな気持ちになって明日からの希望を与えられる。決して上から目線でものを言わず、一人一人の心に寄り添うように等身大の姿で話しかける。さらには、スピリチュアルケアの研究論文や著書も多数出しており研究者からの信頼も篤い、卓越した宗教家であり学者でありケア者であるのがこの著者の素の姿である。窪寺はなぜ金子みすゞに25年間も魅了されたのか。窪寺は言う。「彼女の魅力の一つは、弱い者への暖かな眼差し

や共感の深さである。彼女の詩に現れた優しさに何度も癒されてきた。心が動揺し悩み葛藤した時、彼女の詩は静かに心に寄り添って癒してくれる。何度もありがたいと思った。しかし私の心に消えない疑問があった。なぜ彼女は自死したのか、なぜ自死しなくてはならなかったのか。その疑問が私の心につきまとった。」これがみすゞ研究の動機である。

窪寺自身が牧師として、そしてスピリチュアルケア者として多くの人を慰め、癒し、救いの手を差し伸べてきた背後には、人の苦しみを我が事のように引き受け、辛さや悲しさを自らも背負い、ともに生きていこうとする人への優しさや思いやりがある。だからこそ、そのような暖かい眼差しを持つ詩人であるみすゞに惹かれたのであろう。と同時に、なぜ自死をした詩人が現代の人たちの共感を呼ぶの

かについても深く知り、今後のスピリチュアルケアを改善するためのヒントを得たい、そしてさらには、現代の人たちの自死をできるだけ救いたいと願ったのだろう。

本書は6章からなっている。第1章はみすゞの遺言の分析から彼女の自死をめぐる考察をしている。窪寺は一般的にみすゞを自死に追いやったとされる理由以外の分析を詳細に示している。第2章はみすゞの死の理解の分析をとおして、既存の宗教（仏教やキリスト教）を脱皮する彼女のスピリチュアルな宗教世界について、第3章はその宗教世界は空想的で非現実的だったため、苦難や困難が襲ってくることを支える機能を果たさなかったことを示している。第4章はみすゞの詩に現れる宗教心の機能を分析している。彼女は私たちが見失っていた森羅万象の中に宗教的意味や

「いのち」の価値を見い出す重要性に気づかせてくれる。弱い者、傷を負った者とともに労わり合うことの大切さを教えてくれる。しかし彼女は苦難や悲しみに納得できなかったことを指摘している。第5章はみすゞの詩の特徴には「さびしさ」があり、その背後には特権意識や他者への共感性の欠如、抑うつ気分や自己愛人格傾向が読み取れることを示している。第6章はみすゞの苦悩は現代人にも共通する点が多く、自己愛に振り回された彼女の人生は、私たちの生き方への警告という意味合いがあると締めつけてみすゞに優しく暖かい眼差しで鋭く切り込んだ窪寺の分析は、私たちの人生観や宗教観に光を照らす語りでもある。

(A5判・二二八頁・四四〇〇円・関西学院大学出版会)

青野太潮 福音の中心を求めて

3版
どう読むか、新約聖書

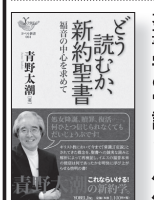
聖書学の常識は、信仰のヒジョウシキ。この逆説と

乖離の荒海を、いざ航海。

しかしそれらふたつ（聖書学と信仰）の「常識」は、多くの場合、厳しく相対立しています。

で、ことはやっかいです。

新書判・240頁・二二二〇円



ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税社)

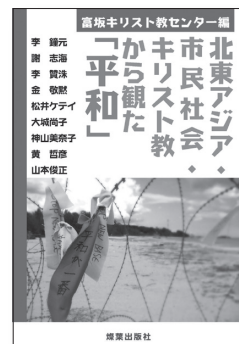
大貫隆著 ブルトマン学派とガダマーを読む 反響

ヨハネ福音書解釈の根本問題

復活前と現在の「地平」が「融合」するヨハネ福音書の重奏
構造を解明！ ブルトマン、ケーゼマン、ボルンカムら
錚々たる聖書学の権威による解釈でも見落とされなかった、
イエスの全時性と共同体に吹き渡っていた聖霊の息吹への
気づき。この視座から捉え直して見えてくる新たな「地平」
の融合」とは。
四六判上製・二四〇頁・一九八〇円

「話し合いは多く、戦略は少なく」
が大切なことのようにだ

〈評者〉 飛田雄一



北東アジア・市民社会・
キリスト教からみた
「平和」

富坂キリスト教センター編



本書は、富坂キリスト教センターの研究会「東アジアの平和と思想史研究会」（二〇一八年一〇月―二〇二二年九月）の成果である。「平和思想史研究」という学術的な研究会と思われそうだが、本書は研究史の枠を越えて平和の具体的なイメージを与えてくれるものとなっている。

第1章「平和の思想と戦略としての地域形成」（李鍾元）は基調報告的論文。「地域」は単に地理的に決定されるものではなく「創られるもの」であるとして、「東洋」「東亜」「東アジア」「アジア太平洋」へといった枠組みの変容を論じ、現状と課題について述べている。第2章「中国から見た平和の課題と展望」（謝志海）では、中国から見た平和の課題について、第3章「韓国の平和論と南北코리아平和構築の歴史」（李賛洙）では、「朝鮮半島での平和構築可能性を具体化する理論的土台を築きたい」と論を進めて

いる。評者は日本の侵略に抵抗した「東学」の平和思想的立場づけに特に興味をもった。ここまでは、第一部「北東アジアにおける平和思想の課題とチャレンジ」。

第4章「パブリックディプロマシーは北東アジアに平和をもたらし得るのか?」（金敬熙）は筆者が「一九七〇年代に日本で生まれ、一九八〇年代から一九九〇年代半ばまで韓国で暮らし、そして、一九九〇年代半ばから現在まで日本で大学院課程に在籍し、NGOスタッフや大学教員として日韓ならびに北東アジアを軸とした平和問題に関連する市民社会の一員として暮らしてきた」という立ち位置を明らかにして論じている。第5章「北東アジアの和解と平和構築を目指す平和教育実践ネットワーク―謝罪と赦しをめぐって」（松井ケイ）は、「和解と平和構築が目的の平和教育」の必要性を説いている。日本の平和教育は「なぜ

原爆が落とされたのかを探索することによって真実に向き合うことになる」という指摘は重い。第6章「権力に抗する―主体的な「連帯」に向けた出会い直し」（大城尚子）は、活動家の聞き取り調査もふまえて論述している。一九七〇年代ごろにベ平連青年としてすごした評者には、なつかしい「沖縄青年委員会」という言葉も登場した。以上が第二部「平和思想と市民社会」。

第7章「キリスト教の「神の国」と平和思想」（神山美奈子）は、「神の国」運動の賀川豊彦、海老名弾正、矢内原忠雄、ヴォーリス、久布白落実の流れの中での分析が興味深い。第8章「台湾の民主化運動における台湾基督長老教会の役割」（黄哲彦）は、長老教会の歴史記述が生々しい。「台湾長老教会は支配者と共に「平和」を保持するの

ではなくて、民と共に神からいただいた自由と正義を求めている」という。第9章「近代日本のアジア認識と宗教ナショナリズムから見た平和思想の課題」（山本俊正）は、総括的論文。キリスト教の「犠牲の論理」と「贖罪論」の相互関係が重要であることが指摘されている。評者には冒頭の自伝的な「はじめに―私のアジア認識」が特に興味深かった。以上が第三部「平和思想と宗教の課題」である。以上のように駆け足で紹介からも、本書がいかに多様な視点を提示してくれているかを理解できるだろう。「話し合いは多く、戦略は少なく」（李賛洙）という記述もあった。評者は本書共通のキーワードは、「対話」ではないかという感想をもった。

（ひだ・ゆういち＝神戸学生青年センター理事長
（四六判・三二二頁・定価二七五〇円・燦葉出版社）



新刊

聖書学論集53

日本聖書学研究所編
●A5判並製 160頁
定価3,300円(税込)

旧約は禍いについて
いかに語ったか
―神の義と人間の成熟
などにも触れながら―

竹内 裕

ヨハネ黙示録における
わざわい(πληρη)

―十のわざわい(出エジプト)
の再話の伝統を背景に―

遠藤勝信

ホセア書4章16節の
翻訳と解釈

―拒絶と罰の狭間に
救いは見えるのか―

長井隆児

「永遠の天幕」(ルカ16:9)
のアイロニー

―ルカ福音書における悪の人
物造形をめぐり―考察―

河野克也

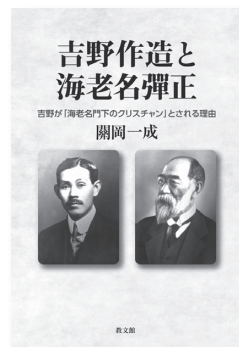
放浪のラディカリスト・
パウロと無償の福音宣教
大川大地

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

ライフワーク・海老名弾正 研究のスピンオフ

〈評者〉 本井康博



吉野作造と海老名弾正
吉野が「海老名弾正」のクリスチャンとされる理由
関岡一成著



四〇年ほど前に始動した著者の海老名弾正^{だんじょう}研究は、同志社大学人文科学研究所の『新人』・『新女界』研究会（一九九二―一九九八年）で加速した。成果は共同論文集『新人』『新女界』の研究（人文書院、一九九九年）中に「海老名弾正の神学思想」論として結実する。他にも太田雅夫が「吉野作造とキリスト教」を寄せた。

私も諸先輩の驥尾に付して六年間、研究会にほぼ皆勤したが、未成稿に終わった。研究会解散時、「次期研究会は海老名で」の声も上がったが、実現しなかった。

著者はその後も地道に研鑽を重ね、近年は円熟の域に達した感がある。業績は『海老名弾正——その生涯と思想』（教文館、二〇一五年）、『海老名弾正関係資料』（教文館、二〇一九年）、『人になれ人、人になせ人——クリスチャン・サムライ 海老名弾正』（同）として結晶する。本書

はこれに続くスピンオフである。

本書の主題はかつて『海老名弾正』の一節「海老名と吉野作造」で一五頁にわたり論じられたが、本書の分析はいつそう緻密化し、量も二〇〇頁を超える。後半の約一〇〇頁を資料編とした構成に著者の文献重視の姿勢が窺える。そこには海老名と吉野が『新人』と『新女界』に寄せた論考七編が全文、解説付きで収録される。岩波書店の『吉野作造選集』に未収録のものも含まれる。ただ、両者間で最大の争点となった組合教会の朝鮮伝道や朝鮮併合に関する論考が収録されていないのは、惜しまれる。

索引の欠如も同様である。

著者は海老名の検証ばかりか顕彰にも取り組む。出身地柳川の海老名弾正先生顕彰碑（二〇〇五年）の銘文作成にも携わる。略歴作成を依頼された私も、除幕式に参列した。

私は、同志社大学が出版した『同志社山脈——一三人のプロフィール』（晃洋書房、二〇〇三年）で海老名と吉野、ならびに彼の帝大同期生、西村金三郎の評伝を受持った。西村は海老名が第八代同志社総長時代の理事で、海老名の辞職や後任人事にも辣腕を振るった。

当時、次期総長候補^{だいくはろ}大工原銀太郎との就任交渉を巡って西村と吉野の間で確執があった事は、同志社秘史である。彼ら三者は、共に帝大・本郷組合教会人脈に繋がる。ちなみに、帝大での愛弟子、住谷悦治（後に第一四代総長）に同志社赴任を勧めたのも吉野である。

要するに吉野は恩師（海老名）、先輩（大工原）、同期（西村）、後輩（住谷）共々、「同志社人」である。身分は嘱託講師だが、海老名の要請で帝大側から有識者を何名も

同志社に送りこみ、法学部に「同志社アカデミズム」なる黄金時代を招来させた陰の立役者でもある。

本書は海老名・吉野の思想的系譜や密な師弟間交流を詳らかにする他に、吉野が協力を約束しながらも未刊に終わった海老名著作集出版を密かに構想する。正確な原文（第一次資料）こそ研究の大前提と確信する著者ならではの悲願である。

先年、著者の尽力で海老名家から海老名資料（吉野書簡等、四〇九九点）を贈られた同志社は、海老名研究の一大拠点である。今や同志社にとっても出版の機は熟しつつある。本書が呼び水となって海老名著作集が緒に就けば、著者の本懐これに過ぎるものはない。

（もとい・やすひろ 元同志社大学神学部教授
（四六判・二三四頁・定価一九八〇円・教文館）

神学ダイジェスト132号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある、多様な価値観に直面するクリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2022年6月発行
A5版112頁
定価640円（税込）

特集 恩恵論

巻頭言「恩恵論」に寄せて

ルターと「恩恵のみ」

恩恵と経験―ロナガンの視点―

恩恵と「純粹自然」―ド・リュバックの見方―

抑鬱状態における恩恵の可能性

旧約聖書における「食べる」との役割

モーセ五書の構成と内容―五つの五分の一―

●連載 私は思ったより大丈夫

石居基夫

P・オキヤラハン

L・M・ベッティロ

D・ケルメット

J・コブレンツ

A・バリアリーニ

C・ドーマン

ホン・ソンナム

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

弟子の手による 内村鑑三の〈自伝〉

〔評者〕 赤江達也



復刻・DVD版
内村鑑三先生の足跡

斎藤宗次郎編著
児玉実英・岩野祐介編



本書は、斎藤宗次郎（一八七七一―一九六八）による未刊行の自筆原稿「内村鑑三先生之足跡」全六巻（一九五七年）の復刻版である。その画像データを取めたDVDと、解説などを収録した冊子からなる。

斎藤宗次郎は、内村鑑三（一八六一―一九三〇）の弟子の無教会キリスト者である。斎藤は日露戦争に際して徴兵拒否を企て、内村に止められたことで知られている（花巻非戦論事件）。また、文学者・宮沢賢治（一八九六―一九三三）との交友でも知られる。

ここに復刻された「内村鑑三先生之足跡」は、内容的には、斎藤宗次郎による内村鑑三の伝記である。六九年にわたる内村の生涯が、一四七三ページ（画像データでは一五九六枚）にわたって克明に記録されている。

ただし、その記述のほとんどは、内村が書いた文章の

のようにもみえる、内村の没後のようすまで描かれた不思議な〈自伝〉が成立する。

この「内村鑑三先生之足跡」において、斎藤宗次郎はあくまでも「編集者」的な位置にとどまろうとしている。斎藤は『恩師言』や『聴講五年』といった他の著作ほどは、自分の存在を打ち出していない。しかしそれでも、その膨大な手書きのデータを通して、斎藤宗次郎という「書き手」が浮かび上がってくる。

本書の冊子に収録されたふたりの編者による解説と論文は、斎藤宗次郎を考える上での基礎文献である。岩野祐介の解説「内村鑑三研究と斎藤宗次郎」と、児玉実英の論文「斎藤宗次郎のプロフィール」である。内村鑑三・斎藤宗次郎・宮沢賢治にかんする参考文献も充実している。

（つぎはぎ）によって成り立っている。そしてその記述の

一人称（余・私）は、内村を意味している。つまり、この伝記は、内村の膨大な文章を筆写・編集することによって編み上げられた内村鑑三の〈自伝〉なのである。

内村の自伝としては『余はいかにしてキリスト信徒となりしか』（鈴木範久訳、岩波文庫、二〇一七年）がある。これは一八九五年に刊行された英文の自伝であり、当然のことながら、青年期までしか書かれていない。他方、斎藤は「足跡」で、内村の六九年の生涯全体を描く〈自伝〉をつくらうとしたようにみえる。

斎藤宗次郎は、この伝記の編集者であり、注釈者であり、挿絵画家である。内村のことをつなぎあわせてテキストをつくり、そこに（二字下げで）注釈を書き加え、自筆のイラストや地図などを配置する。このようにして、絵日記

そこからみえてくるのは、晩年の内村鑑三「先生」に身近で仕え、その没後も数十年にわたって「恩師」の記録を作りつづける「弟子」の姿である。その姿勢は、内村の弟子のなかでも、南原繁や矢内原忠雄のような著名な知識人とはかなり異なっている。

本書の緒言「推薦のことば——斎藤宗次郎を思う」で、山折哲雄は斎藤の姿勢を「臨書」になぞらえている。書の世界で、手本を見て字を写すことである。斎藤は「クールな臨書的態度」（山折哲雄）で、師・内村の「文章」や「文字」を書き写す。そこから生まれた大著『内村鑑三先生の足跡』は、内村の伝記であるだけでなく、〈師弟の伝記〉としても読みうるはずである。

（あかえ・たつや＝関西学院大学社会学部教授
B5判・九八頁・定価一九八〇円・教文館）

これでわかる！
アメリカのキリスト教！

アメリカ・キリスト教入門

関西学院大学法学部教員

〔著〕 大宮有博
Tomohiro Oniya

アメリカの政策を知る上で切り離すことができない、アメリカ・キリスト教。その歴史を、「ピューリタンたちによるイギリス人植民地の誕生」から「バイデン大統領の時代」まで、専門用語をなるべく避け、初学者にもわかりやすく解説。アメリカ文化のみならず、日本各地の教会やキリスト教主義学校、病院の背景、さらには、世界情勢を知る鍵にもなる一冊。



目次

- 第1章 イギリス人植民地の誕生とピューリタン
- 第2章 大覚醒とアメリカ独立
- 第3章 リバイバルと南北戦争
- 第4章 アフリカンアメリカンの教会
- 第5章 移民の宗教
- 第6章 世界に広がるアメリカのキリスト教
- 第7章 産業発展期のキリスト教
- 第8章 プロテスタントにおける新しい潮流
- 第9章 二つの世界大戦から冷戦
- 第10章 変革の時
- 第11章 政治化したファンダメンタリスト
- 第12章 9.11からバイデンの時代へ

A5判・300頁・定価2,860円（税込）

キリスト新聞社 since 1946

169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
AVACOビル6階 TEL 03-5579-2432

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenritkan_syoten_0530@joho.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台南郷区新136 新郷センター・イオ1F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-2 千葉カリアセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.avaco.info	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimdo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1旧キ駅前(外販専門)	03-3280-5663	03-3280-5637		tokyo@nikkhan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tuiglobe.ne.jp/~yokohamads/index.html	sksch@mvva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.la.cocacn.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kyotan/	kyotan@mtbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkhan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geofis.jp/natsujaro_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2022年4月～2022年5月)									
編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日			
潮 義 男	創世記講解 下 —創世記 23章～50章	新書	344	1,320	ヨベ	ル	4/4		
金子 晴 勇	キリスト教思想史の諸時代V —ルターの思索	新書	272	1,320	ヨベ	ル	4/20		
川上直哉 訳 著	P・T・フォーサイス 活けるキリスト —『活けるキリスト』の現代的意味	新書	192	1,210	ヨベ	ル	4/25		
『内村鑑三研究』 編集委員会 編	内村鑑三研究 第55号	A 5	188	3,740	教文館		4/6		
開 岡 一 成	吉野作造と海老名弾正 —吉野が「海老名門下のクリスチャン」とされる理由	四六	224	1,980	教文館		4/25		
ソーニャ・M・スチュワート、ジェーロム・W・ペリーマン著／トマス・ジョン・ヘイスティン グス日本語版監修／左近深恵子、西堀和子、ブラウネルのぞみ 訳	新版 ちいさな 子どもたちと礼拝	A 4	336	4,180	一麦出版社		4/11		
牧 田 吉 和	改革派教義学 第4巻 —キリスト論 別冊附録(総目次・聖句索引)	A 5	328	5,280	一麦出版社		4/15		
上 垣 勝	海鳥たちの遺言 —世界と神を黙想する	四六	208	2,420	日本キリスト教団出版局		4/18		
三浦綾子記念文学館 監修／日本キリスト教団出版局 編	愛は忍ぶ 三浦綾子物語 —挫折が拓いた人生	A 5 変	80	1,320	日本キリスト教団出版局		4/25		
小川修パウロ書簡 講義録刊行会 編	小川修パウロ書簡講義録 8 ガラテヤ書講義Ⅱ —神の〈まこと〉から人間の〈まこと〉へ	A 5	297	3,300	リ ト ン		4/20		
内 田 樹	レヴィナスの時間論 —『時間と他者』を読む	四六	432	2,860	新教出版社		4/25		
柴 崎 聰	詩人は聖書を どのように表現したか	四六	286	2,310	新教出版社		4/25		
大 島 力	自由と解放のメッセージ —出エジプト記とイザヤ書から	四六	168	2,090	教文館		5/25		
G・タイセン 著／ 大 貫 隆 訳	新約聖書のポリフォニー —新しい非神話論化のために	四六	278	3,960	教文館		5/25		
岩 城 聰	ウィリアムス神学館叢書V 今さら聞けない!? キリスト教 —聖公会の歴史と教理編	A 5	248	1,980	教文館		5/25		
白 旗 眞 生	羽をやすめるとまり木で —「青少年の居場所Kiitos」から	四六	112	1,430	日本キリスト教団出版局		5/25		

福音と世界

2022年8月号

特集「集まり」以後

寄稿者＝清水知子、太田悠介、水嶋一憲

中井亜佐子、笹塚コミュニケーション

好評連載 フッド・スピリチュアルズ（山下杜起）、サンタース&ヤーバー「教会におけるマクロアグレッション」（訳解説＝真下弥生）、福音のフラグメント（有住航、ルカ福音書（山崎ランサム和彦、間隙を思考する（田崎英明）、「日本のキリスト教」を読む（山口陽一）ほか

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

ろん今は絶版の超貴重本。おかげでどれだけ今年のレントが恵まれたことか。この場所をお借りして改めて御礼申し上げます。

さて、説教を読んだり、聞いたりするのにハマってしばらくたつ。「Youtubeで説教を聞くのにハマってるんだ。いい説教あったら教えてよ」と言いふらしていたら、先日、友人から「この牧師のメッセージわかりやすくていいよ」と勧められ、ある教会のYoutubeを覗いてみた。スクリー

前回、本欄を執筆した際に、故・飯清氏の説教集を読んでいるということを書いた。すると、なんと読者ひとり、同氏の小説教集『飼葉おけと十字架』（日本基督教団出版局）をプレゼントしてくださいました。もち

予告

本のひろば

2022年9月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）ネルソン橋本ジョシユア諒、（書評）G・タイセン著『新約聖書のポリフォニー』、大島力著『自由と解放のメッセージ』、岩城聰著『今さら聞けない!?キリスト教——聖公会の歴史と教理編』、奥田智志文・黒田征太郎絵『すべては神様が創られた』他

ンにスライドを映し出し、明快に聖書箇所背景やメッセージを解説する。そして、「この箇所から私たちが学べることは三つあります！」と。うん。そうか。うん。そうですよね……。グッドボタンを押して、そつとアプリを閉じた。以前どこかのキリスト教雑誌でこんな文書を読んだ記憶がある。『教える説教』、これは日本の教会の大半を占めている説教スタイルだ。筆者もずいぶんとこのスタイルの説教に養われてきた。だが、今ではちよつと物足りないのはどうしてか。たしか雑誌の筆者は、明治期以来の伝道者たちの説教を集めたシリーズ『日本の説教』（日本キリスト教団出版局）を挙げて、この説教者たちの大部分は、教える説教とは異なるスタイルを用いていると書いていた。よし、次はこれにしよう。絶版。いや、オンデマンド版がある……。うーん、なかなかいいお値段。（桑島）

無我夢中

桜美林学園の創立者・清水安三の信仰と実践

桜美林学園チャプレン会

組合教会から中国宣教に派遣された清水は貧しい民衆と出会い、教育事業に乗り出す。敗戦後も志を持続し、ユニークな学園を築いた。その無我夢中で型破りな信仰と人生を活写した、現代人必読の書。
◆A5判・定価1980円



7月25日

レプラと奇跡

脱神話化と脱医学化に向けて

堀 忠著

聖書のレプラとは何を指していたのか。この言葉はどのように受容され、いかなる概念史を形成するに至ったのか。古代キリスト教文献を中心とする膨大なデータベースから実証的解明を試みた画期的労作。
◆A5判・定価5940円

7月25日



初期キリスト教の世界

7月25日

松本宣郎著

彼らが感じ、考え、生きた真実に、歴史学から迫る。古代地中海世界に生きたキリスト者たちの心性、職業労働観、教会の営みなどをめぐり、多岐にわたる論点が浮かび上がる興味尽きない11の論考と講演を収録。ローマ史研究に新たな心性史の地平を切り拓いた著者の真骨頂。
◆四六判・定価3300円



やばい神

不都合な記事による旧約聖書入門

トーマス・レーマー著／白田浩一訳 待望の書!

3月25日

旧約聖書の神はなぜ横暴で残酷に見えるのか。そんな記述をどう解釈すべきか。多くの人が置くテキストを旧約学の第一人者が取り上げ、それらの表現の意味と理由を考察し、愛と解放の真の神の「人柄」に迫った、目からウロコの書。
◆四六判・定価2420円



古代末期・東方キリスト教論集

戸田聡著

5月25日

◆A5判・定価5775円

キリスト教修道制の成立をめぐる諸研究、『エジプト人マカリオス伝』や最初のシリア語キリスト教著作家バルダイサンに関する研究と原典翻訳、そのほか著者が企図するヴェーパー『宗教社会学論集』全訳をめぐる諸論考など、常に優れた成果を生み出してきた研究者の歩みを示す27編。

本
の
ひ
ろ
ば

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二二年八月一日発行（毎月一回・一日発行）
第七七六号 二〇二二年八月号

発行所 電話163-0614 東京都新宿区新小川町九一ー 一般財団法人キリスト教文書センター
発行人 金子和人 編集人 白田浩一 印刷所 モリモト印刷株式会社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3331-6016 振替0170-511167 印刷所 電話03-3331-6016

定価七八円（税抜七一円）（〒63円）
一年分一三〇〇円（送料共）

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ https://bp-uccj.jp 《価格10%税込》

最も偉大な祈り

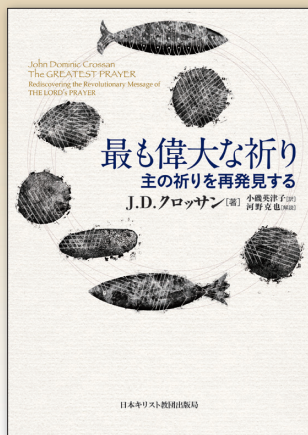
主の祈りを再発見する

J.D.クロッサン〔著〕

小磯英津子〔訳〕 河野克也〔解説〕

2022年7月22日
刊行予定

史的イエス研究で一時代を画した著者が、聖書学や考古学の知見だけでなく、他の著作には見られない深い霊性をもって主の祈りの革命的なメッセージを説き明かす。 ◆A5判 並製・256頁・定価4,180円



主の祈りをより豊かに祈るために

主の祈り 今を生きるあなたに



W.H.ウイリモン／
S.ハワーワス〔著〕
平野克己〔訳〕

キリスト教信仰の基本である「主の祈り」を信徒向けにやさしく解説。

四六判 並製・234頁
定価2,420円

主の祈り イエスと歩む旅

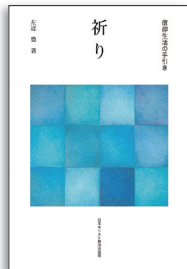


平野克己〔著〕

イエスと一緒に「主の祈り」を生きるための、かけがえのない案内書。

四六判変型 上製・104頁
定価1,430円

信仰生活の手引き 祈り



左近 豊〔著〕

旧約聖書に学びつつ、イエスが祈りについて何を教えているかを説く。

四六判 並製・160頁
定価1,430円

信仰生活ガイド 主の祈り



林 牧人〔編〕

『信徒の友』記事をまとめたシリーズ。主の祈りの各言葉を丁寧に解説。

四六判 並製・128頁
定価1,430円